

様 式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成 26 年度）

1. 機関番号

4	2	6	7	6
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学短期大学部

3. 研究種目名 挑戦的萌芽研究 4. 補助事業期間 平成 24 年度～平成 27 年度

5. 課題番号

2	4	6	5	3	1	3	3
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 日本の繊維産業興隆期における女性労働者の労働意識と教養についての研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
3 0 3 8 9 8 9 5	ヒライ イクコ 平井 郁子	家政科	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
4 0 1 7 1 9 5 4	ナカムラ クニコ 中村 邦子	家政科	講師

9. 研究実績の概要

1. 調査項目と方法の検討：調査は、文献調査、聞き取り調査（オーラルヒストリー）とし、繊維産業興隆期に就労した女性労働者がほとんど生存していないので、文献からの調査を検討した。また、聞き取り調査は、国内と日本の産業興隆期と同じ状況である国外で実施することを検討した。

2. 文献調査の実施：文献調査は昨年度訪問した、京都綾部の繊維会社を再度訪問し、繊維産業復興期に就労していた女子工員らの家庭環境、その後、女子工員らの教育のために付設した高女の経緯、会社の女子工員教育に対する考え、高女での勉学と就労女子工員らの考え方などについて、当時の記録を閲覧することで調査を実施した。

繊維産業興隆期に発展した企業の埼玉県熊谷にある資料館での調査と岡谷にある博物館の資料等の調査を実施した。

3. 国内調査の実施：国内のアパレルメーカーに中国内陸部から研修に来ている縫製女子工員らの就労意識についての聞き取り調査を実施した。この調査を実施した目的は、中国内陸部は、日本の繊維産業興隆期のように出稼ぎによる就労女性が多いことによる。さらに現在短大 2 年に在学している学生について、勉学とこれから就く就労への考え方についてアンケート調査を実施した。

4. 国外調査の実施：国外の聞き取り調査は、日本の繊維産業興隆期と同じ労働状況と推定されるベトナムで実施した。労働問題の関係から女性労働者に直接聞き取り調査を実施することはできなかった。しかし、調査対象工場の経営者（女性）から女性労働者の就労状況を直接聞き取ることができたことで、当初の目的を概ね達成できたと考える。